

平成26年度 農山漁村交流拠点整備事業

「やんばる3村における広域交流拠点体制の 運用強化に向けた実証」

報告書

概要版

平成27年3月

沖縄県

(事業受託者：株式会社オリエンタルコンサルタンツ・株式会社アンカーリングジャパン共同企業体)

1. 事業概要

(報告書 第1章、第2章)

(1) 目的

- グリーン・ツーリズムを活用した修学旅行等の大規模な受け入れに対応するため、受入調整や点在する地域資源の情報発信不足等の課題を解決できる環境を整えることを目的に、広域の受け入れ体制モデルづくりを実施する。
- モデル地域における広域交流拠点（以下、交流拠点）の体制のあり方や運用方法等の検討及び総合窓口として必要な企画の構築や商品の企画、情報発信等の取り組みを実施し、習得を図った。具体的には、体験メニューの企画力の強化やコミュニティビジネスによる販売戦略立案の習得を図った。

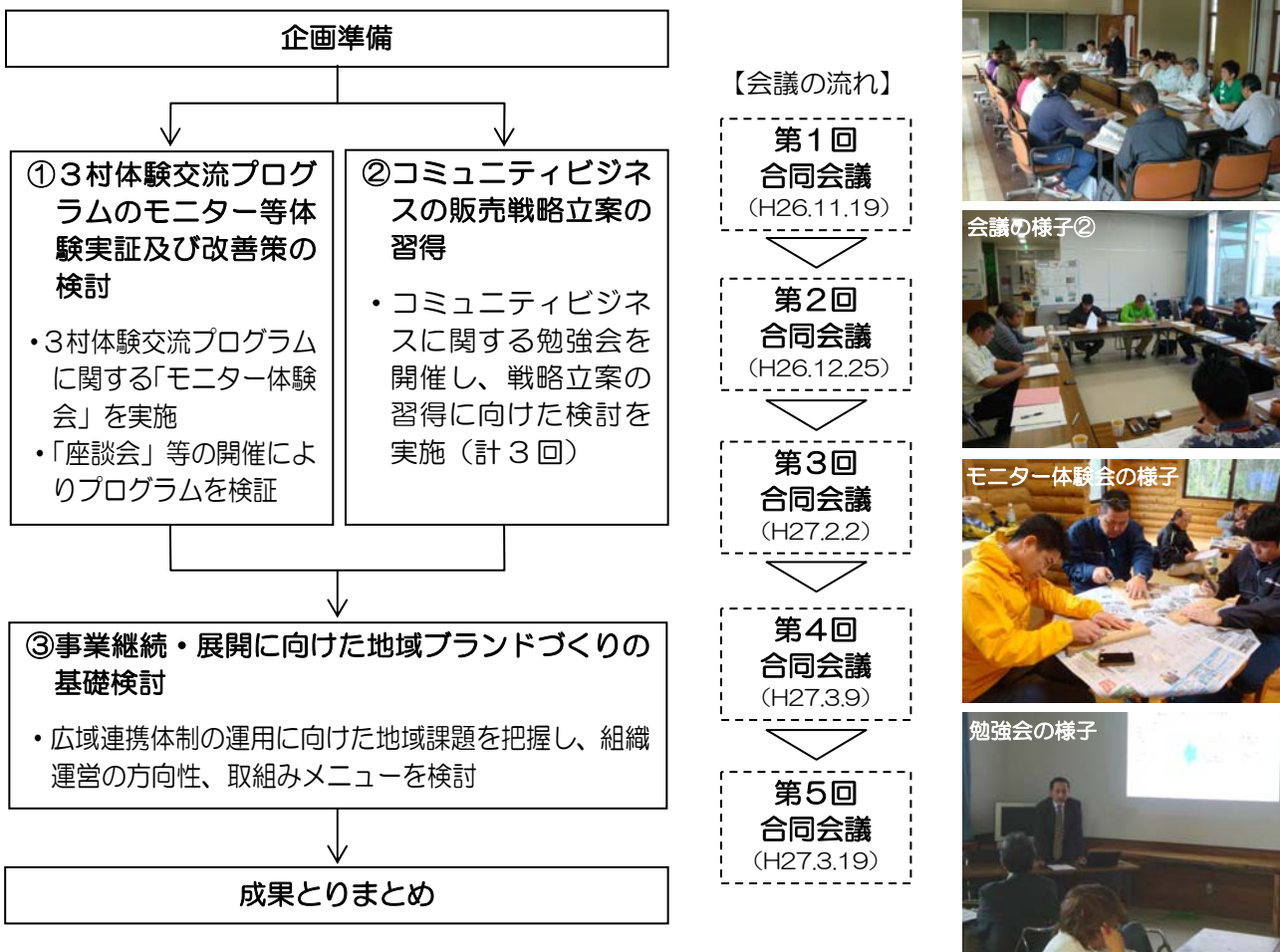
(2) 対象地域

- 本島地域の広域交流拠点体制モデル（国頭村、大宜味村、東村：以下やんばる3村）

(3) 平成 25 年度成果

- ① 3村共通体験交流プログラムの構築
- ② 3村コミュニティビジネスの検討
- ③ 一元管理に向けた情報環境の整備
- ④ 情報発信のための広報活動への取り組み
- ⑤ 3村モデル組織体制の強化（モデル運用計画作成）

(4) 検討の流れ



2. 3村体験交流プログラムのモニター等体験実証及び改善策の検討 (報告書 第3章)

(1) 実証の目的

- 国頭村をフィールドに大規模修学旅行の受け入れをコンセプトとしたモニター体験会を開催し、3村体験交流プログラムの実証を行った。
- 3村共通体験プログラムの内容の向上や運営側のスキルアップを図ることを目的として、体験会終了後に座談会を実施し、アドバイザーとの意見交換会、その後の改善案の策定等を行った。

(2) アドバイザーの選定

- I. 旅行業の従事者
→ 旅行会社：2名 (KNT 沖縄、N-tour)
- II. 体験学習の専門家
→ 自然学校指導者：1名 (がじゅまる自然学校)
- III. 学校教育の専門家
→ 村の教育委員：1名 (国頭村教育委員)

(3) 体験プログラムの選定

- 体験交流プログラムとして、今後3村での運営が想定される以下を対象に選定
 - ・ グリーンベルトの植樹体験
 - ・ やんばる自然素材の手作りコスメ
 - ・ やんばる森林探索
 - ・ マイ箸づくり

(4) モニター体験会の実施概要

【日時】平成 27 年 2 月 4 日 (水) 10:00~17:00				
【参加者】計 26 名 (3 村実践者、体験指導者、行政、アドバイザー、県、受託事業者)				
10:00~	10:35~12:05	12:10~	13:20~14:50	15:00~17:00
集合・ 全体説明	<体験①> ①グリーンベルトの 植樹体験 ②やんばる自然素材 手作りコスメづくり	昼食・ 休憩	<体験②> ①やんばる森林探索 ②マイ箸づくり	<座談会> 意見交換



グリーンベルトの植樹体験



やんばる自然素材の手作りコスメ



やんばる森林探索



マイ箸づくり

(5) 座談会の開催

- 【実施事項】
 - ・ 各体験プログラムの振り返り (アドバイザーからのアドバイス等)
 - ・ 3村連携に関する意見交換
- 【参加者】計 23 名
- 【会場】国頭村 比地公民館



座談会の様子

(6) プログラムの向上に向けた対応の共有

- ◇ 「グリーンベルトの植樹体験」について
⇒ 成長過程の情報発信等、再訪を促す仕掛け 等
- ◇ 「やんばる自然素材の手作りコスメづくり」について
⇒ 実の収穫や工場見学を組み込んだメニュー化 等
- ◇ 「やんばる森林探索」について
⇒ 雨天時のコース検討、環境学習の時間確保 等
- ◇ 「雨天時の代替プログラム (マイ箸作り)」について
⇒ 木育との連携、“やんばるらしさ” (ストーリー) の演出 等
- ◇ 3村地域内連携について
⇒ プログラム間 (体験指導者間) の連携による地域としてのストーリー性のあるプログラム提供
⇒ 3村間の情報共有による受入体制強化 等

3. コミュニティビジネスの販売戦略の立案の習得

(報告書 第4章)

(1) 販売戦略立案習得の目的

- コミュニティビジネスの販売戦略の検討および戦略立案スキルの習得を目的として、コミュニティビジネスに関する勉強会を開催し、戦略立案の習得に向けた検討を実施した。
- 勉強会の開催にあたっては、販売戦略検討に関する知見を有した専門家を招聘し、計3回の勉強会を通じて販売戦略立案に必要な知見の習得を図った。

(2) 検討の流れ

- 平成 25 年度、規格外野菜の流通促進について検討
- 販売にあたっては地域の“ブランドカ”が重要との認識



- 勉強会（計3回）を開催
⇒ブランド構築の意味と方法論といった基礎的な段階から学び、交流拠点に求められる機能やビジネスの方向性を検討



- 販売戦略立案に必要な知見を習得

(3) 講師の選定

- 沖縄県6次産業化プランナーをである、以下の専門家を講師として選定

【講師】

石原 守次郎 氏

株式会社フード&ツーリズム総合研究所

○専門分野

事業開発/ビジネスモデル構築/
観光モデル開発/農商工連携事業構築/
マーケティング計画/コミュニケーション計画

(4) 勉強会の実施

①第1回勉強会（平成 27 年 2 月 18 日）

- 「ブランド構築」について
 - ・ブランド価値の意味と方法論、自分たちのブランド価値の見直しを実施

⇒地域資源の要素からブランドを整理（プロセスを習得）

⇒地域ブランドのコアや価値、メッセージ等をワークにより検討



ワークショップ（討議）の様子

②第2回勉強会（平成 27 年 2 月 23 日）

- 「消費者志向と、顧客価値の検討」について
 - ・自らのブランド価値を意識した上で、顧客や、顧客の嗜好を知り、顧客価値について検討

⇒対象とする顧客層や顧客層のニーズを考え、顧客価値等をワークにより検討



③第3回勉強会（平成 27 年 3 月 5 日）

- 「交流拠点に求められる機能」について
 - ・交流拠点の立ち位置を踏まえた、ビジネスの展開について検討

⇒全体討議により、交流拠点が担うべき役割を検討
(ビジネスモデルの創出、企画開発機能)



- 勉強会を通じて、地域ブランドの視点から、ブランド構築の意義と方法論を習得し、戦略立案に向けた考え方の整理、ビジネスの実施に向けた基礎スキルの向上を図った

4. 事業継続・展開に向けた地域ブランドづくりの基礎検討

(報告書 第5章)

(1) 検討の目的

- 継続的な活動を展開していくために必要な、地域ブランドづくりを念頭においた活動の方向性や、取組内容等に関する検討および3村関係者間の合意形成を目的とした、次年度以降に向けた基礎検討を実施した。

(2) 地域課題の把握

- 3村への個別ヒアリングの実施

【対象】 3村の行政担当者、
 グリーン・ツーリズムの実践者

- 3村の現状および課題を把握
- 行政および実践者のそれぞれの立場からのお互いに期待する事項や3村連携に向けた課題等を整理

(3) 問題意識の整理・共有

- 3村の現状と課題に加え、体験交流プログラムの実証、勉強会を通じたコミュニティビジネスの販売戦略に関する検討結果から、地域の問題意識を整理 ⇒ 会議の場にて認識を共有

【問題意識】

- ◆ 3村の連携強化 ⇒ 地域の実践者が現場レベルでお互いを理解し、協働する交流の場を設ける。
- ◆ 体験プログラムでの受入連携の促進 ⇒ 3村共通プログラム等の受入体制構築・強化
- ◆ 3村としてのPR強化 ⇒ 他地域との差別化、誘客促進に向けた「魅力」の発信
- ◆ コミュニティビジネスの推進 ⇒ 地域活性化に資する地域産品の販売

(4) 地域課題をふまえた今後の交流拠点運営の方向性検討

- 次年度以降の取り組みの継続・展開に向けた基礎検討として、広域連携体制の運用に向けた地域課題を把握し、組織運営の方向性や、3村体験交流プログラムおよびコミュニティビジネスの実践を含めた今後取り組むべき事項（案）を検討。

《次年度以降の実施事項（案）》

問題意識	取り組みの方向性	取り組み内容
3村の現場レベルでの情報共有	・ 交流会の場の設定	・ 合同勉強会、交流会
	・ 3村内での地域内情報発信	・ 広報誌への掲載、ニュースレター発行 ・ 産業まつりへのPRブースの共同出店
体験プログラムでの受入連携の促進	・ 体験プログラムの地域内ネットワークづくり	・ 体験プログラム実践者の情報共有／ネットワークづくり
		・ 自然ガイドの共有
3村としてのPR強化	・ パンフレットでは伝わらない魅力の訴求（PR強化）	・ やんばるツーリズムのPR強化
コミュニティビジネスの推進	・ 朝市の運営	・ 名護イオンの駐車場を活用した朝市運営（地域への来訪のきっかけづくり）
	・ オンパクイベントの具体化	・ オンパク*イベント実施に向けた具体化（閑散期に実施）

※ 期間限定で面的に多数の体験プログラムを提供する地域づくりイベント手法。温泉博覧会が語源。テーマ性のある誘客や地域のプログラム育成に効果が期待できる。